

学校図書館
1校に1名の学校司書

介護保険の
抜本的改善

東伏見周辺
に図書館を

本気で実現したいから6期目に挑戦

5期20年、みなさんに支えられ働かせていただきました。民主主義と国民の暮らしを無視する安倍政権、そして西東京市政の悪政ぶりに、いても立ってもいられず、6期目に挑戦することにいたしました。母親として、市民として、議員として、様々な苦勞を乗り越えてきた経験を、フルに生かしてがんばります。

西東京市議会議員・副議長

保谷清子

保谷清子

検索



BLOG

ほうや・きよこ

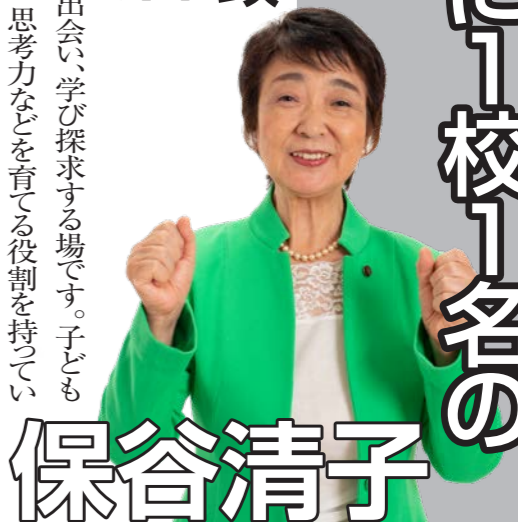
日本共産党

憲法を守ることは、すべての人の
幸せを守ること！

まひと押し出す

学校図書館に「校1名」の司書配置

後ろ向きな現市政 後進市に転落



保谷清子

学校の図書館は、子どもが本の世界と出会い、学び探求する場です。子どもを本好きにし、確かな学力・豊かな感性・思考力などを育てる役割を持つています。そのためには専門の学校司書の役割が大切です。西東京市では、学校司書は司書の資格を持つ専門家ですが、2校に1名の配置です。そのため「(かけもちのため)子どもの名前と顔が覚えられない。毎日同じ学校なら覚えられ、一人ひとりに合わせた読書支援ができるのに」などの声があがっていました。私は1校に1名の専任配置にするよう市議会でも何度も要求してきました。専門の学校司書配置は、かつて旧保谷市の時代に革新市政が試行的に実施したもので、当時は多摩地域で日野市につき2番目の先進的取り組みでしたが、今では専門の学校司書の1校1名の配置は26市中13市まで進み、西東京は後進市になってしまいました。

専任司書配置に執念も やす頼もしい保谷さん

——大澤 正雄さん(東京の図書館をもっと良くする会 代表)

西東京市議会が「意見書」を可決したことは画期的です。東京都は子どもたちの学習意欲をさらに広げるために、この意見書にそった政策を実施すべきです。粘り強く学校図書館の充実に力を尽くす、保谷清子さんに期待します。

徹底して追及し 市議会でも意見書も

私はこの遅れを取り戻したいと、ここ数年はこれまでもまして集中的に取り上げてきました。そうした中、日本共産党市議団が提案した「司書全校配置などに都の財政支援を求める」意見書を市議会

で可決することができました(反対は自民党1名退席・公明党)。教育長の答弁も、「学校司書の重要性は認識している」と変化してきています。もうひと押しです。何としても実現し、どの子にも豊かな働きかけができる体制にしていけることを願っています。「学校司書1校1名配置を求める要望署名」に取り組んでいます。ぜひご協力ください。

子どもに本を読む喜びを 私のライフワークです



私は本に救われた。
良い本は人生を変える

私のこうした活動を支えているのは小さい頃の体験です。小さい頃の私は人が怖くて家族以外の人の中に入っていくことができない性格でした。友だちもできずに「自分は価値のない存在だ」と思い、寂しさに押しつぶされそうになりました。そんな私を救ってくれたのは、母が語ってくれた昔話と兄がみやげにくれた絵本と童話の本でした。

そしてもう一つが学校の図書館でした。本を読んでいると二人の寂しさを忘れ、本を読むことが好きになり、本から生きる勇気をもらうことができました。

地域で昔話の語り聞かせ活動 目が輝く子どもたち

結婚し、子育てをしながら、地域の子どもたちに昔話の語りと本の読み聞かせをする活動をしました。

思いを込めて、昔話を子どもたちに語り出すと、子どもたちがどんどん話に引き込まれ、目が輝いてくるのがわかります。子どもたちが昔話や本の楽しさを知りようになり、たくさんの良い本に触れれば、私のように、生きる力をもらおうと思えるのです。学校図書館充実が私のライフワークです。

保谷さんと一緒に全力 中町児童館の建設・充実

——富士町 S-Iさん

「中町に児童館の建設を」との地域要求がある中、保谷清子さんや地域のみなさんと建設を求めて懸命に力をそそぎました。児童館が建ってからは、幼児を持つ母親たちも利用できるようにと、母親クラブを誕生させました。

介護保険の改善 福祉守る市政へ

保谷清子
のお約束

次々と改悪される介護保険を改善することは私がどうしてもやりたいことです。

- 26市で一番高い介護保険料の負担軽減を
- 特養ホーム増設。介護サービスの水準を守る
- 国保料、多子世帯などへの市独自軽減を
- 学校給食費の無償化を。就学援助の拡充
- はなバス拡充、交通不便の解消を
- 障がい者グループホームや就労支援の拡充を

憲法9条守り抜きます

安倍首相がねらう9条改憲は、日本を「戦争できる国」にしようとするものです。3人の子どもを育てた母として、また2人の孫を持つ祖母として戦争する国づくりに反対します。



▲私の誕生日に孫のくるみ(5才)からバースデーカードが届きました。「だいすき あいしてる」と、うれしい言葉が。

私は、がん検診について、西東京が誇る無料制度を守るべきだと、合併以後、繰り返し主張してきました。

しかし、市は2年前に喉頭がんと前立腺がんの検診有料化を強行。さらにそれ以外の5がん(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん)の検診についてもアクションプランで有料化を計画しています。私は、有料化されたがん検診で受診率が大きく減った事実を示し、2つのがん検診を無料に戻すこと、5がんの無料の制度を守ることを強く求めています。

市長は「健康応援都市」を掲げていますが、無料制を守り、死亡率1位のがんの早期発見、早期治療にこそ力を入れるべきです。

有料化・値上げ計画を ストップして!

—新町 安納 一枝さん

「これで私の唯一の楽しみが消える」と怒るお年寄り。市の施設の利用まで市民に負担させるだけでなく、中央図書館の駐輪場まで有料化。子どもたちもお金を持たなければ図書館に通えなくなるではありませんか。保谷清子さん、あなたが頼りです。

がん検診の 無料継続に全力



その後、市の審議会で練られ、条例内容を盛り込む「要綱」ができたものの、自民党が議会でたびたび「子どもたちに誤った権利意識を与えかねない」などと発言し、「子どもの権利条例にかかわる条例予算の完全撤廃」(11年3月30日、予算特別委員会)を求めたこともあり、凍結されてしまいました。しかし私は、凍結の解除を求めるなど、繰り返し条例の制定を要求し続けました。ようやく今回、実現したのです。

自民党の妨害を 乗り越えて

私は、10年前に、当時の坂口市長が「子どもの権利条例制定」を2期目の公約にしたことを高く評価し、「ぜひ実現して」と迫りました。そして、「条例」を作った全国の他の市も視察して学んだことも生かし、実効性のある中身にすることや子どもたちから丁寧な意見を聞くことなど、様々な提案もしました。



2009年に
出された条例内容
を盛り込んだ
「要綱」

10年前から

子どもの権利条例を迫る

今度の9月市議会で「子ども条例」が全会一致で成立しました。虐待、いじめ、貧困などから子どもを守ることに、そのために子どもの権利擁護委員を配置するなど重要な中身のある条例です。

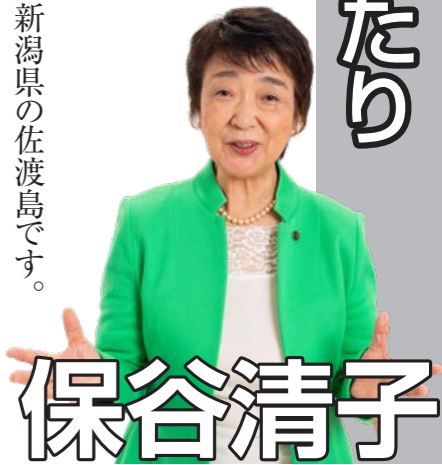
ついに実現 子ども条例



保谷清子

保谷清子もものがたり

佐渡生まれ。
人に接することが
苦手な子ども時代



保谷清子



よく荒れていた佐渡の海

私が生まれ育ったのは新潟県の佐渡島です。祖父母と両親兄妹の八人家族でした。「自然豊かな中で、幸せな子ども時代を過ごしました」と言ってもいいところなのですが、どうしたことか、私は人と接することが極端に苦手で苦しみました。小・中・高校時代は、人の中に入れるようになりたい、こんな自分を変えたいと思い続けました。

努力してない自分に気づく

高校を卒業し、姉を頼って上京、都内の小児科医院で働きながら看護学校へ通い、准看護師の資格を取りました。その頃の同僚に、話すことがとても上手な人がいました。私はその人の話や努力を聞く中で、自分は今まで、人と話すことに何も努力していないことに初めて気がついたのです。

それからです。話し方の本など様々な本を読みあさり、「話し方教室」にも通いました。「自分を変えたい」その一心でした。

三人の子育てを通じて社会のじやつ

職場の友人のつながりで、今の夫と出会い結婚しました。夫は旧保谷市の農家の長男です。24歳の時でした。

夫は日本共産党員でした。私は家に配られる「しんぶん赤旗」を読んで、なんてわかりやすく、人を大切に行っている新聞だろうと思いました。ニュースではよくわからない問題がわかって元氣が出るのです。そして三人の子どもを育てる中で、女性団体「新日本婦人の会」の会員になり、会員のみなさんと児童館の建設を求める運動や、子どもの医療費の無料化を求める運動に取り組むようになりました。

仲間と一緒に社会を変えたいと 共産党に。そして市議会議員に

こうした運動などで出会った仲間と憧れ、日本共産党に入党しました。「市議会に挑戦を」と言われた時は、まもなく定年退職を迎える夫と二人三脚ならできるかな、と受けて立候補し、市議会議員になりました。

市議会議員となったからは試練の連続でした。「私は人見知りです」「話すことが苦手です」などと言っていたらなくなり、「書く力」も、「質問する力」も、「分析する力」も求められます。次から次へ法律や制度が変わり覚え直さなくてはならなかったり、二つ問題が解決すると、また次の問題が起きたりするので、でも自分を変えたい一心で学んだり努力したりしたことが、議員活動に役立ち、エネルギーの元になりました。

激動の時代を生きる市議会議員として、さらに努力しなければと気を引き締めています。



核兵器禁止の平和行進に参加。
中央が私・保谷清子です。→

好きな言葉は 「暗闇を嘆くより 一本のろうそくに 火を灯せ」

保谷清子

私が生まれたのは終戦の2年後です。若くはありません。けれども私には、人生、様々な苦勞を乗り越えてきた経験があります。長い議員活動を通じて、決してあきらめない、本気で頑張れば道は開けるという確信があります。日本共産党と私を応援し、励ましてくれる人の輪を持っています。

私の好きな言葉は「暗闇を嘆くより、一本のろうそくに火を灯せ」というものです。市民一人ひとりのみなさんの心に、明日への希望という火を灯せる市議会議員でありたいと決意しています。



東伏見駅周辺に

図書館を

東伏見駅周辺には公共施設が不足しています。特に図書館がほしいという切実な声があがっています。西武線東

伏見駅の立体化の計画もあり、住民のみなさんと力を合わせ、ぜひ実現したいと思います。



保谷清子

拡幅に取り組んだ東伏見駅東側の踏切



商店街の活性化など 街づくりも

さらにみなさんと力合わせてがんばります。

- 柳沢駅や東伏見駅周辺の商店街の活性化
- 市民集会所・コミュニティセンター有料化計画をストップ
- 学校のトイレや校舎の改善・改修を
- 都市農業を守り、農業を生かした街づくりを
- 公共施設や病院を回る福祉バスの運行

夫婦で期待—図書館の 設置と内容の充実

—富士町 西 千恵子さん

柳沢図書館へは歩いて行くと遠く、踏み切りもあり危険を感じます。子どもから大人まで生活上の知識を高めたり、気分転換をはかれる傑作をそろえた図書館がほしいです。ぜひ東伏見駅近くにできたらと希望する一人です。

—富士町 西 勇さん

地域のみなさんが積極的に活用して、知識等の向上に貢献できる書籍が多くおかれた図書館づくりを、ぜひお願いします。

保谷清子プロフィール

●1947年、新潟県佐渡郡相川町（現・佐渡市）生まれ。新潟県立佐渡高校卒業、小児科医院勤務、豊島准看護学校卒業。新日本婦人の会保谷支部支部長・事務局長を歴任。●1999年、西東京市議に初当選（旧・保谷市）、現在5期目。現在、企画総務委員会所属。市議会副議長。●好きなもの：子どもたちの笑顔

保谷清子の活動地域：中町、富士町、東伏見、柳沢、新町